

FLORA KANAGAWA

Jan. 31. 2019 No.86

神奈川県植物誌調査会ニュース第 86 号

〒 250-0031 小田原市入生田 499 神奈川県立生命の星・地球博物館内
神奈川県植物誌調査会
TEL 0465-21-1515・FAX 0465-23-8846
e-mail kana-syoku@flora-kanagawa2.sakura.ne.jp



図 1. 神奈川県植物誌調査会が編纂した『神奈川県植物誌 1988・2001・2018』。

『神奈川県植物誌 2018』刊行

(田中徳久)

2018 年 12 月 7 日、生命の星・地球博物館に『神奈川県植物誌 2018』が届いた。12 月 12 日、印刷・製本が完了し、それ以降、順次発送すると印刷業者との約束だったが、発送前に完成品を確認したいとのことで、先に納品して貰ったものである。上・下巻 2 冊で 1 組、箱入りで厚さ 11cm, 5.8kg の大著である。

県単位の植物目録・植物誌としては『神奈川県植物誌 2001』刊行以来、17 年振り 6 番目の、神奈川県植物誌調査会が主体となった植物相調査に基づいた 3 番目の植物誌である(図 1)。2013 年 4 月の「次の植物誌へ向けて」発起総会から考えると、5 年 8 ヶ月目の成果で、もちろん『神奈川県植物

誌 1988』、『神奈川県植物誌 2001』の調査が基礎になったもので、約 40 年間に及ぶ継続調査の蓄積である。今回刊行された『神奈川県植物誌 2018』が、これまでの『神奈川県植物誌 1988』、『神奈川県植物誌 2001』と異なる大きな点は、上・下巻の 2 分冊になったこと、冊子体と同内容のものが、電子版として、WEB 上で公開されることが挙げられる。

2 分冊の件では、製本機の性能から分冊にしないと難しいという話と 1 冊で大丈夫との話があり、多少混乱した。また、索引部分を上下巻のそれぞれに入れたが、別の分冊にしても良かったかなとの思いもあり、印刷業者に見積をとり、予約販売の頒布価格を決めていくタイミングの中で、このような形になった。

WEB 上で公開されている電子版は、冊子体同様

に上・下巻に分冊する意味がないことから、1冊の構成とし、内容は同じだが、目次や索引などの重複部分が整理されており、ページ番号が異なっているため、引用の際や索引の利用には注意が必要である。また、電子版は、今後、少しずつ内容が改訂されていく可能性もあり、それぞれの ISBN

コードを持つ別の書籍として扱われる。

『神奈川県植物誌 2018』の刊行までの経緯や苦勞は、「はしがき」、「あとがき」にも記したが、調査会会員の皆様の努力が形になったものとして、まずは、皆様のご苦勞を労いつつ、その完成を祝いたい。どうもありがとうございました。

『神奈川県植物誌 2018』で新たに神奈川県 の植物相に加えられた植物

(田中徳久・勝山輝男)

『神奈川県植物誌 2018』(以下『神植誌 18』と略記)は、6冊目の神奈川県植物誌・植物目録である。『神植誌 18』で新たに神奈川県植物相に加えられた植物は、在来植物 98 分類群(うち 5 分類群は絶滅)、帰化植物 193 分類群の 291 分類群で、雑種 46 分類群(うち 1 分類群は帰化植物)を加えると 337 分類群であった。ここでは、過去に文献上の記録があるのみで、これまで標本が確認、採集されていなかったが、『神植誌 18』のための調査期間中に標本が確認、採集されたもの、『神植誌 01』等では別の植物に同定されていたが、新たに同定し直されたもの、も新産とした。また、『神植誌 01』刊行後に、Flora Kanagawa 等で報告された植物も新産として扱った。なお、神奈川県植物誌調査会による『神植誌 18』の証拠標本の採集による野外調査の期間は、2013～2016 年であるが、『神植誌 18』の記述同様、『神植誌 01』の刊行後の期間を『神植誌 18』の調査期間とした。

以下に目録を示したが、科および各分類群の配列は『神植誌 18』の順とし、学名は省略し、和名、『神植誌 18』の冊子体の掲載頁数、『神植誌 18』の記述、特記事項を記載した。和名の前の「→」や「↑」の記号は、『神植誌 18』に準じたもので、それぞれ帰化、絶滅を示す。『神植誌 18』で雑種として掲載されたものは、和名を () で囲んだ。『神植誌 18』の記述は「」内に記したが、加除した部分もあり、特記事項は※に続けた。なお、『神植誌 18』に示されている引用文献は省略した。

P002 イワヒバ科

ヒメクラマゴケ (8 頁)

P005 ハナヤスリ科

ヤマハナワラビ (20 頁)・エゾフユノハナワラビ (20 頁)・(ゴジンカハナワラビ) (22 頁)

P007 リュウビンタイ科

リュウビンタイ (24 頁)

P009 コケシノブ科

ホクリクハイホラゴケ (29 頁) ※本種以降のハイホラゴケ類は、雑種複合体であることが明らかにされ、『神植誌 01』の扱いとは、大きく変わっている・ミウラハイホラゴケ (30 頁)・イズハイホラゴケ (30 頁)・(アイハイホラゴケ) (31 頁)・(ミツイシハイホラゴケ) (31 頁)・(セイトカホラゴケ) (31 頁)・(コハイホラゴケ) (32 頁)

P017 サンショウモ科

→ニシノオオアカウキクサ (37 頁)・→アメリカオオアカウキクサ (37 頁)

P030 コバノイシカグマ科

ウスバイシカグマ (42 頁)・(フモトカグマ×イシカグマ) (43 頁)・(キタイズカグマ) (44 頁)・(ケブカフモトシダ×フモトカグマ) (44 頁)・(シモダカグマ) (44 頁)・ユノミネシダ (44 頁)

P031 イノモトソウ科

ヒメミズワラビ (46 頁) 「従来、日本でミズワラビと呼ばれてきた植物は、ミズワラビとヒメミズワラビの 2 種に分割された」・アイコハチジョウシダ (54 頁) 『神植誌 01』では孢子囊群のない幼株のため、決定的な特徴を見出せないことから、今後検討すべき株として判定が保留されていた」※『神植誌 01』では参考種・ミヤマウラジロ (55 頁)

P033 チャセンシダ科

コウザキシダ (62 頁)・(イセサキトラノオ) (67 頁)

P034 イワヤシダ科

イワヤシダ (68 頁)

P035 ヒメシダ科

ケホシダ (74 頁)・(アイノコハシゴシダ) (76 頁) 『神植誌 01』では本雑種の存在が見逃されており、改めてハシゴシダまたはコハシゴシダとされた標本が精査され、本雑種がいくつかあることが確認された」・(アイノコホシダ) (76 頁)

P039 シシガシラ科

ハチジョウカグマ (84 頁) ※『神植誌 01』では参考種

P040 メシダ科

オオヒメワラビモドキ (88 頁)・ウスゲミヤマ

シケンダ (88 頁)・ミヤマシケンダ (88 頁) 『神植誌 01』でハクモウイノデとされていた標本が精査され、山北町大室山で採集されたものが本種とされた」・コヒロハシケンダ (90 頁) 『神植誌 01』では区分しなかった」・(ハクモウイノデ×ウスゲミヤマシケンダ) (92 頁)・(ノッポロシケンダ) (92 頁)・(ホソバムクゲシケンダ) (93 頁)・(ホソバナチシケンダ) (93 頁)・(ムクゲムサシケンダ) (93 頁)・(ムクゲフモトシケンダ) (93 頁)・(ミドリワラビモドキ) (93 頁)・(ナチフモトシケンダ) (93 頁)・(ホソバハクモウイノデ) (94 頁)・ウラボシノコギリシダ (94 頁)・トガリバイヌワラビ (97 頁) 『神植誌 01』では品種として本文中で言及された」・タカネサトメシダ (98 頁)・(ヤマカラクサイヌワラビ) (103 頁)・(ヒサツイヌワラビ) (103 頁)・(ヘビヤマイヌワラビ) (103 頁)・ホソバノコギリシダ (104 頁)・オオバミヤマノコギリシダ (105 頁)・ヒロハノコギリシダ (106 頁)・ヒュウガシダ (108 頁)・(アイホソバノコギリシダ) (110 頁) ※『神植誌 18』で和名が仮称

P042 オシダ科

イヌイワヘゴ (118 頁) ※『神植誌 01』では品種として本文中で言及された」・イヌナチクジャク (126 頁) 『神植誌 01』ではナチクジャクの変種として付記され、マルバベニシダの単純型との区別に疑問が残るとされた」・(スルガクマワラビ) (136 頁)・(イワヘゴモドキ) (136 頁)・(ホソコバカナワラビ) (140 頁) 『神植誌 01』では参考種とされていた」・(ヤマグチカナワラビ) (143 頁)・(アイツヤナシイノデ) (147 頁)・(サカゲカタイノデ) (153 頁)・(イワシロイノデモドキ) (155 頁)・(ハリマイノデ) (155 頁)・テリハヤブソテツ (156 頁) 『神植誌 01』では品種として本文中で言及されていた」・(アイオニヤブソテツ) (157 頁)・(ナガバメヤブソテツ) (160 頁)

P047 シノブ科

→トキワシノブ (162 頁)

G004 マツ科

シラビソ (183 頁)

A012 ウマノスズクサ科

→サルマ (205 頁)

A014 モクレン科

→ユリノキ (213 頁)

A025 クスノキ科

→アオガシ (216 頁) ※『神植誌 01』では参考種・→ゲッケイジュ (221 頁) ※『神植誌 01』では参考種

A028 サトイモ科

→オオハンゲ (229 頁) 「本来の自生ではないと考えられるが、三浦半島長柄のものは、採集地がかなり山中である」・オドリコテンナンショウ (230 頁) 『神植誌 01』ではユモトマムシグサとされていた」

A029 チシマゼキショウ科

エダウチゼキショウ (235 頁) 「これまでの神奈川県植物誌調査では、本変種に該当するものは採集されていない」※基準標本は山北町丹沢で採集されたものを栽培したものである。

A032 トチカガミ科

→アマゾントチカガミ (241 頁)

A038 ヒルムシロ科

ツツイトモ (255 頁) ※『神植誌 01』では本文中で言及された

A053 シュロソウ科

ツクシショウジョウバカマ (271 頁) ※『神植誌 01』ではシロバナショウジョウバカマとされていた。

A061 ラン科

タンザワサカネラン (303 頁) ※『神植誌 01』以降に新たに記載された分類群・トサノクロムヨウラン (308 頁) 『神植誌 01』でクロムヨウランとされていた」・ムヨウラン (309 頁) 『神植誌 01』には記述がないが、古くから三浦地区南部には分布しており、近年、相模原市や愛川町からも報告された」・ナヨテンマ (311 頁)・ハチジョウシュスラン (317 頁)・(ミヤマウズラ×シュスラン) (320 頁)・キンセイラン (328 頁)

A066 キンバイザサ科

†コキンバイザサ (336 頁) 『神植誌 01』では参考種とされていた」

A070 アヤメ科

(ニワゼキショウ×オオニワゼキショウ) (342 頁)

A073 ヒガンバナ科

タマムラサキ (346 頁) ※『神植誌 01』ではヤマラッキョウに含められていた。

A074 クサスギカズラ科

→オランダキジカクシ (359 頁)

A078 ツユクサ科

→オオトキワツユクサ (368 頁) 『神植誌 01』では取り上げられなかった」・→シュツコンツユクサ (369 頁) 『神植誌 01』ではハウライツユクサとされていた」・→シマツユクサ (371 頁)・→カロライナツユクサ (371 頁)・→アレチイボクサ (372 頁)

A080 ミズアオイ科

→ナガバミズアオイ (374 頁)

A097 イグサ科

→フサヒメコウガイゼキショウ (388 頁)・→シナダレクサイ (389 頁)『神植誌 01』でアメリカクサイとされたものの一部」※『神植誌 18』で和名が新称・→ニセコウガイゼキショウ (389 頁)・→トミサトクサイ (390 頁)・タチコウガイゼキショウ (391 頁)・→カナダコウガイゼキショウ (391 頁)※『神植誌 18』で和名が新称・アサギズメノヒエ (397 頁)

A098 カヤツリグサ科

オオアゼテンツキ (426 頁)・→オオハタガヤ (427 頁)・→オオアメリカミコシガヤ (455 頁)・→サヤシロスゲ (457 頁)・カヤツリスゲ (457 頁)・→アサハタヤガミスゲ (458 頁)・クジュウツリスゲ (482 頁)・アイノコシラスゲ (488 頁)※『神植誌 01』では取り上げられなかった

A103 イネ科

→タイワンマダケ (505 頁)「マダケ属の他種に誤同定されたものが多くみつかった」・→カムロザサ (511 頁)・アラゲネザサ (512 頁)・→ミアケザサ (514 頁)「クマザサ *S. veitchii* と誤同定されていたものが多く見つかった」・ケマキヤマザサ (516 頁)・アポイザサ (517 頁)「ミヤコザサとされた標本が多かった」・アリマコスズ (519 頁)・キリシマザサ (519 頁)・コガシアズマザサ (522 頁)「多くはこれまでシオバラザサと同定されていた標本の中から見つかった」・→ダイフクチク (527 頁)・→タキキビ (529 頁)・→イトハネガヤ (534 頁)・→セイヨウチャヒキ (537 頁)・→チュウゴクカラスムギ (537 頁)・→アレクサヨシ (544 頁)『神植誌 01』でセトガヤモドキとされていた標本が精査され、一部が本変種に訂正された」・→ヒトツノコシカニツリ (563 頁)・ウシノケグサ (566 頁)『神植誌 88』、『神植誌 01』の調査では見出されず(『神植誌 01』でウシノケグサとした標本は筆者の誤同定)、今回の調査で初めて採集された」・アオウシノケグサ (567 頁)・→アサカワソウ (567 頁)「護穎に毛がある外国産 *Festuca* や緑化等向け育成品種の調査がまだ不十分のため確信には至っていない」・→ムラサキナギナタガヤ (569 頁)『神植誌 01』では他の種名で標本庫にあったものが見落とされていたと思われる」・→ドクムギ (570 頁)・→ノレンガヤ (574 頁)・→クシガヤ (574 頁)・→アレナレチャヒキ (578 頁)・→マドリードチャヒキ (581 頁)・→ヤギムギ (588 頁)・→ヘンペイ

ソウ (589 頁)・キタメヒシバ (592 頁)「県内のアキメヒシバについては今後も精査が必要と思われる」・→ケニクキビ (598 頁)・→ヒロハニクキビ (598 頁)・→ニクキビ (599 頁)『神植誌 01』の調査で採集されていたが、同定ができず掲載されなかった」・→ホウキヌカキビ (601 頁)『神植誌 01』でニコゲヌカキビとされていた標本が本種とされた」・→シログネチカラシバ (604 頁)・→ファウンテングラス (605 頁)・→イヌシバ (607 頁)・→ホソバツルメヒシバ (610 頁)・→オガサワラスズメノヒエ (610 頁)・→ツノアイアシ (616 頁)・ミヤマササガヤ (620 頁)「1957 年に採集された標本がミヤマササガヤとされたほか、今回の調査で新たに発見された」・→ヨシススキ (623 頁)・→ケモンツキガヤ (625 頁)・→アキコスズメガヤ (632 頁)※『神植誌 18』で和名が新称・→ナガハナカゼクサ (632 頁)※『神植誌 18』で和名が新称・→ミチカゼクサ (633 頁)『神植誌 01』ではオオニワホコリやニワホコリとされていた標本が精査され、6 点が本種とされた」※『神植誌 18』で和名が新称・→ベニスズメガヤ (633 頁)・→ナガヒゲシバ (642 頁)・イトアゼガヤ (646 頁)

A106 ケシ科

→カラクサケマン (654 頁)・→ニセカラクサケマン (654 頁)

A129 ユキノシタ科

ニッコウネコノメ (710 頁)『神植誌 01』には掲載されていないが、認識されていなかったと考えられる」・ジンジソウ (714 頁)「2016 年 10 月に西丹沢世附の大棚沢上流の岩壁や倒木上で開花を確認し、1958 年 10 月に採集されていた宮代標本もジンジソウであることが確認できた」※『丹沢報告 64』に幽神、世附の記録があり、『神 RD06』では消息不明種とされたが、『神目録 33』、『神植誌 58』、『宮代目録』に記録はなく、『神植誌 88』や『神植誌 01』、『神 RD95』でも取り上げられなかった。なお、MAK でも丹沢山西丹沢で 1949 年 10 月 16 日に採集された標本が見出された(採集者不明; MAK440745)

A130 ベンケイソウ科

→ナガエアズマツメクサ (719 頁)※『神植誌 18』で和名が新称・→エダウチアズマツメクサ (720 頁)※『神植誌 18』で和名が新称・→キンチョウ (721 頁)・→コダカラベンケイ (721 頁)・→ヨーロッパタイトゴメ (722 頁)・ショウドシマベンケイソウ (726 頁)・ベンケイソウ (728 頁)『神植誌 01』では取り上げられなかった

A136 ブドウ科

→アメリカヅタ(733頁)・→ヘンリーヅタ(733頁)

A140 マメ科

→アレチケツメイ(742頁)・→ハブソウ(743頁)・→フウセンツメクサ(748頁)・→オオトックリツメクサ(750頁)・→ボンボリツメクサ(752頁) ※『神植誌18』で和名が仮称・→ウナダレツメクサ(752頁)・→ハナハギ(771頁)・→チョウセンキハギ(772頁)・→アカバナメドハギ(775頁) ※『神植誌01』以降に新たに記載された分類群・→シベリアメドハギ(776頁)・→トウクサハギ(777頁)・→オオバメドハギ(778頁)「葉の上面が無毛のもの」と有毛のもの2型が採集されている」・(ヤマハギ×マルバハギ)(778頁)・→ナンバンアカバナアズキ(780頁)・→サンヘンブ(782頁)・→オオコガネタヌキマメ(782頁)・→ケブカエニシダ(783頁)・→ハリエニシダ(783頁)・→ムラサキモメンヅル(785頁)・→ツリシャクジョウ(788頁)・→ビロードクサフジ(793頁)・→ナヨクサフジモドキ(793頁) ※『神植誌18』で和名が新称

A142 ヒメハギ科

→クマバヒメハギ(802頁)

A143 バラ科

(フジカスミザクラ)(825頁)・(チチブザクラ)(825頁)・(モチヅキザクラ)(826頁)・ハコネキンミズヒキ(855頁) ※『神植誌01』以降に新たに記載された分類群

A146 グミ科

→トウグミ(866頁)・→ナワシログミ(866頁)

A150 クワ科

→ツルクウヅ(884頁)

A151 イラクサ科

→セイヨウイラクサ(886頁)・†ホソバイラクサ(887頁) ※『神植誌01』では参考種・サンショウソウ(892頁)・→コケイラクサ(892頁)

A153 ブナ科

(ミズコナラ)(909頁)

A158 カバノキ科

ヤハズハンノキ(917頁)

A171 カタバミ科

→インカノカタバミ(938頁)・→フヨウカタバミ(939頁)

A186 オトギリソウ科

→トミサトオトギリ(948頁)

A200 スミレ科

→ツクシスミレ(953頁)・シハイスミレ(964頁)

A204 ヤナギ科

オオタチヤナギ(980頁)

A207 トウダイグサ科

→マツバトウダイ(991頁)・センダイタイゲキ(992頁)・→ニセシマニシキソウ(996頁)・→アレチアミガサソウ(999頁)

A211 コミカンソウ科

→キダチコミカンソウ(1006頁)

A212 フウロソウ科

→キクバフウロ(1008頁)・→ヤワゲフウロ(1010頁)・→マルバフウロ(1010頁)・→オトメフウロ(1010頁)・→イチゲフウロ(1012頁)「在来種ではあるが、県産としては帰化扱い」

A215 ミソハギ科

→ホザキキカシグサ(1016頁)

A216 アカバナ科

→ノダアカバナ(1021頁)・→コバナヤマモソウ(1027頁)・→クキナシマツヨイグサ(1027頁)

A240 ムクロジ科

→コウシンテツカエデ(1044頁)

A247 アオイ科

ラセンソウ(1069頁)「『神植誌01』では参考種とされていた」・→タイワンツナソ(1069頁)・→タカサゴイチビ(1073頁)・→ウスベニアオイ(1077頁)・→ミナミフランスアオイ(1077頁)・→フウロアオイ(1079頁)

A270 アブラナ科

→コショウソウ(1096頁)・→ハリゲナタネ(1107頁)・アキノタネツケバナ(1114頁)・フジハタザオ(1118頁)

A283 タデ科

ニセコガネギシギシ(1129頁)「『神植誌01』ではコガネギシギシと混同されていた」・→ダツタンソバ(1133頁)・ヒカゲミゾソバ(1141頁)・†コミゾソバ(1141頁)・†ホソパノウナギツカミ(1143頁)

A295 ナデシコ科

→シバツメクサ(1162頁)・→キヌイトツメクサ(1164頁)・→イトツメクサ(1164頁)・→カギザケハコベ(1166頁)・→セイヨウミミナグサ(1168頁)・→ミチバタナデシコ(1176頁)「イヌコモチナデシコは *P. dubia* と再同定されたが、*P. nanteuilii* もすでに国内に帰化していることが明らかになった」・→カスミソウ(1177頁)・→ツキマンテマ(1182頁)

A297 ヒユ科

→ハリヒジギ(1188頁)・→キクバアリタソウ(1192頁)・イワアカザ(1196頁)「『神植誌01』

ではミドリアカザと誤同定されていた」・→シロザモドキ (1196 頁) 『神植誌 01』で気付かれ、*C. strictum* の可能性が示唆されたが、シロザとの間に明確な区別ができなかったので区分されなかった」・→ナガエツルノゲイトウ (1208 頁)

A308 オシロイバナ科

→タチナハカノコソウ (1214 頁)・→ベニカスミ (1214 頁)

A335 サクラソウ科

サクラソウ (1241 頁) ※『神植誌 01』では参考種

A345 ツツジ科

コバノミツバツツジ (1270 頁) ※『神植誌 01』では参考種・(ワタナベミツバツツジ) (1274 頁)・(ハコネミツバツツジ) (1274 頁)・(ソウウンミツバツツジ) (1274 頁)

A352 アカネ科

→ヒナソウ (1278 頁)・→ハリフタバモドキ (1284 頁)・→シラホシムグラ (1291 頁)

A354 マチン科

†ヒメナエ (1304 頁)

A356 キョウチクトウ科

ジョウシュウカモメヅル (1310 頁) ※『神植誌 01』では品種として本文中で言及された・コカモメヅル (1310 頁) ※『神植誌 01』では参考種・シタキシソウ (1314 頁)

A357 ムラサキ科

→ハゼリソウ (1316 頁)・→ルリヂシャ (1323 頁)

A359 ヒルガオ科

→フウリンユキアサガオ (1330 頁)・→ノアサガオ (1337 頁)・→モミジヒルガオ (1338 頁) 『神植誌 01』では大和市で採集された標本がゴヨウアサガオとされたが、本種とされた」・→アオイゴケ (1340 頁) ※『神植誌 01』ほかでは、カロリナアオイゴケ *D. carolinensis* が当てられていた。

A370 オオバコ科

→ヒシモドキ (1373 頁)

A371 ゴマノハグサ科

→フサフジウツギ (1392 頁)

A375 ツノゴマ科

→キバナツノゴマ (1398 頁) 『神植誌 01』ではツノゴマと誤同定されていた

A377 キツネノマゴ科

→キツネノヒマゴ (1400 頁)・→ヤナギバルイラソウ (1401 頁)

A378 ノウゼンカズラ科

→ノウゼンカズラ (1403 頁) 『神植誌 01』で

は参考種とされていた

A379 タヌキモ科

→オオバナイトタヌキモ (1404 頁)

A382 クマツヅラ科

→ヒメビジョザクラ (1406 頁) 『神植誌 01』では参考種とされていた」・→シュッコンバーバナ (1409 頁) 『神植誌 01』では参考種とされていた」・→ヒメイワダレソウ (1409 頁)・→シチヘンゲ (1410 頁)

A383 シソ科

→ルリハッカ (1416 頁)・シソバタツナミソウ (1423 頁) ※『神植誌 01』では参考種・トウゴクシソバタツナミ (1423 頁)・→ウナヅキヤンバルクマバナ (1428 頁) ※『神植誌 18』で和名が新称・→ガラニチカセージ (1429 頁)・→ハリゲヤグルマハッカ (1430 頁)・→(セイタカハッカ) (1441 頁) ※『神植誌 18』で和名が新称・ヤマクルマバナ (1446 頁) 『神植誌 01』ではクルマバナと混同されていた」・→タチムシャリンドウ (1450 頁)・→イヌハッカ (1450 頁)・→ホソバメハジキ (1456 頁)・→キバナオドリコソウ (1458 頁)

A387 ハマウツボ科

オオヒキヨモギ (1470 頁)

A391 ハナイカダ科

コバノハナイカダ (1474 頁) ※『神植誌 01』では本文中で言及された

A394 キキョウ科

ハマシャジン (1483 頁) ※『神植誌 01』では品種として本文中で言及された」・→ハタザオギキョウ (1485 頁)

A403 キク科

ハチオウジアザミ (1509 頁) ※『神植誌 01』以降に新たに記載された分類群・シドキヤマアザミ (1512 頁) ※『神植誌 01』以降に新たに記載された分類群・→ヒメヒレアザミ (1516 頁)・→クロアザミ (1518 頁)・→フトエバラモンギク (1522 頁)・→バラモンギク (1522 頁)・→ヒメブタナ (1526 頁) 「1999 年に採集された標本があるが、『神植誌 01』では未記録であった」・アオオニタビラコ (1533 頁) ※アカオニタビラコとの 2 亜種とされたので、それぞれ取り上げた」・アカオニタビラコ (1533 頁)・→シナノタンポポ (1543 頁)・→ナンカイウスベニニガナ (1558 頁)・→ウスベニニガナ (1559 頁) ※『神植誌 01』では参考種・→ヤマジノギク (1576 頁) 『神植誌 01』では漏れてしまった」・→コケカミツレ (1591 頁)・→リトウザンヨモギ (1593 頁)・→ニガヨモギ

(1593 頁)・→ホザキノカワラニンジン (1593 頁)・
→ケショウヨモギ (1595 頁)・→ニシヨモギ (1596
頁)・→ニオイヨモギ (1599 頁)・→モクビヤッ
コウ (1599 頁)・→キヌゲチチコグサ (1601 頁)・
オカダイコン (1624 頁)・→ミズヒマワリ (1624
頁)・→カラクサシュンギク (1626 頁)・→マツ
バハルシャギク (1626 頁)・→ホソバナセンダン
グサ (1632 頁)・→オオバナノセンダングサ (1632
頁)・→コゴメギク (1637 頁)・→イトバヒマワ
リ (1637 頁)「2000 年に同定され、和名が新称さ
れていたが、『神植誌 01』では漏れてしまった」
※『神植誌 18』で和名が新称・→ハネミギク (1640
頁)

A409 スイカズラ科

コツクバネウツギ (1658 頁)「自然分布かどう
か今後の調査を要する」

A416 セリ科

→ホシケチドメグサ (1681 頁)・→ハナカザリ
ゼリ (1685 頁)

『神奈川県植物誌 2018』で標本が未確認の植物

(田中徳久)

『神奈川県植物誌 2018』(以下『神植誌 18』と略記)には、3,477 分類群(うち雑種が 242 分類群)の植物が見出しとして掲載されている。見出しとしたものは、神奈川県に自生している維管束植物で、変種以上の分類群であるが(他に確実な分布のないものや栽培種は参考として掲載されている)。しかし、この中には、絶滅種も含め、『神植誌 18』(『神植誌 88』や『神植誌 01』も含む)のための調査により採集された標本のデータベースに該当標本がなく、県外の国立科学博物館や東京大学総合研究博物館などの所蔵標本も引用されていないものがいくつか存在する。一部は、既報の写真による報告などの引用や基準標本の産地が県内であるものなど、神奈川県における「確かな記録がある」と判断されるものもあるが、今後の各方面における標本探索の参考のためにまとめて示した。

和名の前の「→」や「†」の記号は、『神植誌 18』に準じたもので、それぞれ帰化、絶滅を示し、雑種は和名を () で囲んだ。末尾の頁数は、『神植誌 18』の冊子体の掲載頁数であり、記述は基本的に『神植誌 18』の内容を転載したが、一部補記した。

†ヒモカズラ *Selaginella shakotanensis* (Franch. ex Takeda) Miyabe & Kudô (7 頁)『神植誌 33, 神植誌 58』に丹沢の記録があり、『丹沢目録 61』は丹沢山の竜ヶ馬場などの岩上に稀に見られることを記している

†シシラン *Haplopteris flexuosa* (Fée) E.H.Crane (47 頁)『神植誌 58』には丹沢、箱根が産地として記録されているが、『箱根目 58』には記載なく、『丹沢目録 61』は幽神、丹沢を記録している

エダウチゼキシノウ *Tofieldia coccinea* Richards. var. *dibotrya* M.N.Tamura & Fuse in APG 64: 32, f. 1 & 6 (2013) は山北町丹沢が基準産地 (235 頁)(山北町丹沢で採集したものを栽培していたものが基準標本として記載された)「神奈川県植物誌調査では、本変種に該当するものは採集されていない」

†ムサシモ *Najas ancistrocarpa* A.Braun ex Magnus in Beitr. 7. (1870) の基準産地は横浜であるが、基準標本 (Yokohama s.d. Wichura-813 B) は第二次世界大戦で失われた (245 頁)

†ガシヤモク *Potamogeton dentatus* Hagstr. in Botaniska Notiser 1908: 101 (1908) の基準標本は横浜 (Yokohama 1862.8.10-22 Maximowicz LE) (254 頁)

†ムカゴトンボ *Peristylus flagellifer* (Makino) Ohwi ex K.Y.Lang (290 頁)「県内では Maximowicz が横浜で採集 (1862.8.26-9) した標本が、レニングラード (現サンクトペテルブルク) に残されており、高知県立牧野植物園・日本大学生物資源科学部資料館 (2000 牧野富太郎とマキシモヴィッチ展図録) にその標本が掲載されている」
マイサギソウ *Platanthera mandarinorum* Rchb.f. var. *macrocentron* (Franch & Sav.) Ohwi (295 頁)「箱根鷹巣山の写真記録がある (井上ほか 1991 箱根線. No. 391 ~ No. 447 地域環境事前調査報告書: 55, 74)」

†ヤリハリイ *Eleocharis nipponica* Makino in Bot. Mag. Tokyo, 18: 110 (1904) の基準産地の 1 つは箱根芦ノ湖 (434 頁)

†ノグサ *Schoenus apogon* Roem. & Schult. (447 頁)「異名の *Chaetospora albescens* Franch. & Sav., Enum. Pl. Jap. 2: 122(1877), 2: 548(1878) の基準産地は横須賀 (Savatier-1396)」

→カンザンチク *Pleioblastus hindsii* (Munro) Nakai (508 頁)「県内での栽培、逸出は稀」

→タマキンボウゲ *Ranunculus bulbosus* L. (688 頁)「久内 (1941 植研 17: 598) や久内帰化に写真が

掲載されているが、標本は確認できていない」
 ♪→キンチョウ *Bryophyllum delagoense* (Ecklon & Zeyher) Schinz (721 頁)「県内では稀に逸出」
 ♪→コダカラベンケイ *Bryophyllum daigremontianum* (Raym.-Hamet & H.Perrier) A.Berger (721 頁)「県内では稀に逸出」
 †イワレンゲ *Orostachys malacophylla* (Pall.) Fisch. var. *iwarenge* (Makino) H.Ohba (729 頁)『神植目 33, 神植誌 58, 宮代目録』には津久井の山地に分布すると記している…『横植誌 68』は「港北池辺町の草葺屋根上(2棟)に密生したが、1965年に屋根ふきかえのため、ごく少数を残すだけとなった」とあるが今は見られない」
 †サガミメドハギ *Lespedeza hisauchii* T.Nemoto & H.Ohashi in J. Jpn. Bot., 74(5): 268-281 (1999) の基準産地は相州平塚(1930.9.12 Hisuchi TI) (778 頁)
 →†オトメレンリソウ *Lathyrus clymenum* L. (797 頁)「浅井(1979 植研 54(7): 217-219)によって「横浜市荒地の荒地」に「旺盛な生育を示している」と報告されている」
 →†ヒゲレンリソウ *Lathyrus ochrus* (L.) DC. (797 頁)「久内(1951 植研 26: 348)によって横浜港から報告された」
 †(アサツユザクラ) *Prunus incisa* Thunb. var. *bellura* Kawas. in J. Jpn. Bot., 36: 170-171 (1961) の基準産地は真鶴(真鶴 1958.3.29 川崎哲也 TNS145785) (826 頁)
 (ドウリョウイバラ) *Rosa ×pulcherrima* Koidz. nothovar. *kanaii* H.Ohba, Flora of Japan II b 177 (2001) の基準標本は南足柄市大雄山最乗寺(1958.5.23 金井弘夫 TI.) (863 頁)
 →†オオヒカゲミズ *Parietaria pennsylvanica* Muhl.

ex Willd. (902 頁)「初島(1987 レポート 31): 110)によりオオヒカゲミズの和名で報告された」(バッコオオキツネヤナギ) *Salix bakko* Kimura × *S. vulpinoides* Anderson (988 頁)
 →†キバナスズシロモドキ *Coincya monensis* (L.) Greuter & Burdet subsp. *cheiranthos* (Vill.) Aedo, Leadlay & Muñoz Garm. (1110 頁)「久内(1955 植研 30: 127-128)は茅ヶ崎海岸で採集されたものについて、*Brassicella erucastrum* (L.) O.E.Schulz と同定して報告した。『神植誌 58』にも茅ヶ崎の記録がある」
 †コウスノキ *Vaccinium hirtum* Thunb. in Murrey, Syst. Veg. ed. 14: 363 (1784.5-6), Fl. Jap.: 155 (1784.8) の基準産地は箱根(1264 頁)
 (ハコネミツバツツジ) *Rhododendron ×hasegawae* S.Watan. in J. Jpn. Bot. 80: 174, f.2 sinistr. (2005) の基準産地は箱根早雲山(1274 頁)
 (ソウウンミツバツツジ) *Rhododendron ×mizumotoi* S.Watan. in J. Jpn. Bot. 80: 174, f.2 centr. (2005) の基準産地は箱根早雲山(1274 頁)
 †(ムラサキスズメノオゴケ) *Vincetoxicum ×purpurascens* (C.Morren & Decne.) Decne. (1274 頁)『神植誌 58』に鎌倉等(稀)と記録がある」
 (キラニシキゴロモ) *Ajuga ×bastarda* Makino (1421 頁)『神植誌 58』で横浜等, 『神植目 33』で横浜(川島), 橋本で記録がある」
 (エダハリアザミ) *Cirsium ×patens* Kitam. (1514 頁)『神植誌 58』に箱根の記録がある」
 †カノコソウ(別名ハルオミナエシ) *Valeriana fauriei* Briq. (1655 頁)『横植誌 68』に元石川(横浜市青葉区)で撮影された写真が掲載されており, 『箱根目 58』に箱根畑宿の記録がある」

『神奈川県植物誌 2018』関連展示が開催されています！

(大西 亘)

『神奈川県植物誌 2018』の刊行と前後して、県内の博物館等で『神奈川県植物誌 2018』と当会の活動を紹介する展示が順次開催されています。各施設での展示には、それぞれの地域の調査会会員が協力し、県博の展示内容を取り込みながら展示ごとに独自の内容となっています。ここでは、開催中のもの、会期が終了したもの、開催が予定されているものうち告知可能なものをご紹介します。この他の施設での関連展示も鋭意準備され

ており、情報解禁になり次第、順次お知らせします。どうぞお楽しみに！

【開催中の展示】

「植物誌をつろう！～『神奈川県植物誌 2018』のこれまでとこれから～」(県博巡回展・観覧無料)

会期：2018年12月20日(木)～2019年2月28日(木)

会場：神奈川県自然環境保全センター 展示室 2F プナの森ギャラリー

厚木市七沢 657 TEL: 046-248-0323



県博特別展で見られなかった丹沢ならではの貴重標本や保全センターの調査協力についても展示・紹介しています！
(神奈川県自然環境保全センター 2019年1月25日撮影)

【会期が終了した展示】

「植物誌をつくろう！～『神奈川県植物誌 2018』のこれまでとこれから～」

会期：2018年7月14日（土）～11月4日（日）

会場：神奈川県立生命の星・地球博物館

概要は、展示図録や「特別展「植物誌をつくろう！～『神奈川県植物誌 2018』のできるまでとこれから～」の見どころ+α」（『自然科学のとびら』vol.24, No.3 p18-19. インターネットでも公開）をご覧ください。



『神奈川県植物誌2018』の刊行を目指す調査会の活動を解説した県博の特別展図録（写真右）は、県博のミュージアムショップで販売中です（1部700円）。県内各地の図書館でもご覧いただけます。

「大庭でみられるみぢかな植物」

会期：2018年10月30日（火）～12月16日（日）

（好評のため2週間会期延長）

会場：藤沢市湘南大庭市民図書館



調査会藤沢グループの全面協力のもと、図書館の入り口ホールを利用して、親しみやすいイラストや仕掛け、迫力の押し葉標本に、多くの利用者の方がのぞき込んでいました（湘南大庭市民図書館 2018年11月25日撮影）。

「大井町の植物を調べる～『神奈川県植物誌 2018』をめぐって～」

会期：2018年11月10日（土）～18日（日）

会場：大井町生涯学習センター



「おおい自然園展示会」の1コーナーでの展示。おおい自然園園長で当会会員の一寸木肇さんによる展示解説には、町長や町の職員、地域の方々も熱心に質問をされていました。（大井町生涯学習センター 2018年11月10日撮影）

【今後の関連展示予定】

今後の県内各地での関連展示にも、周辺地域を調査地や活動の場とされている会員のみなさまを中心に引き続きご協力をいただければ幸いです。植物誌調査にまつわる悲喜こもごも(?)のエピソードや写真などとともに、植物誌を紹介する展示にもぜひ“ご参加”ください！

「かわさきの植物～市民とともに調べて、記録した30年・『神奈川県植物誌 2018』ができるまで～」

会期：2019年3月21日（木・祝）～4月14日（日）

会場：かわさき宙と緑の科学館（川崎市青少年科学館）

川崎市多摩区枳形 7-1-2 TEL: 044-922-4731

「あつぎの草木、花めぐり『神奈川県植物誌 2018』の成果をひもとく（仮）」

会期：2019年10月～11月

会場：あつぎ郷土博物館（2019年1月27日開館）

厚木市下川入 1366 番地 4 TEL: 046-225-2515

厚木市と周辺地域の植物誌調査とその成果について紹介します！

※開館時間や休館日については、各施設にお問い合わせ下さい。

2018年度総会の報告（一部再掲）
（事務局）

会費納入のお願い

(事務局)

本誌送付の封筒に会費の納入状況を表示させていただきました。2018年度分までの会費が未納の方は、至急、会費の納入をお願いします。総会等でお知らせしておりますように、『神奈川県植物誌2018』は、会員の方々に1部を無料で配布しますが、2017年度の総会以前に入会し、2018年度の会費を納入いただいた方々にお送りしていますので、よろしくをお願いします。古くからの会員の方には、恐縮でもありますが、ご協力ください。

『神奈川県植物誌2018』について

(事務局)

●印刷冊子体の発行・頒布の状況

12月中旬に発行され、会員の皆様には、すでにお手元に届いているかと思えます。発行が大幅に遅れ、申し訳ありませんでした。頒布希望の申込に基づき、1,400部を印刷し、2019年1月現在、会員・執筆者に286部、神奈川県内外の博物館・図書館・植物関係研究室・関連学会等に565部を寄贈し、455部を有償頒布しました。現在は受付を中止していますが、残部(調査会留保分)の扱いなどについては、総会で議論する予定です。

●電子版の公開

『神奈川県植物誌2018』の電子版は、会のWEBサイト (<http://flora-kanagawa2.sakura.ne.jp/efloraofkanagawa.html>) で無料で公開していますので、ご活用ください。内容は冊子版と同じですが、目次や索引などの重複部分が整理され、ペー

ジ番号が異なっていますので、引用や内容のご指摘の際にはご注意ください。

●正誤・補遺について

『神奈川県植物誌2018』は、印刷冊子体の刊行に先立ち、電子版を公開していることもあり、すでにいくつかの誤りや補遺的な内容が指摘されています。特に調査組織については、事務局が各ブロックの活動状況を正確に把握していなかったこともあり、ブロック事務局や調査を担当された会員の皆様にはご迷惑をおかけし、ご不快なお気持ちにさせてしまい、たいへん申し訳ありませんでした。また、その他にも、編集上のミスも多々あり、合わせてお詫び申し上げます。皆様からの指摘には、前述のようなもののほか、記述内容に踏み込んだもの、読者と執筆者の見解の相違による「誤り」とすべきか判断に悩むものまで、さまざまな事項が含まれています。今後の正誤あるいは補遺のため、何かお気づきの際は、ぜひ情報をお寄せください。

目次

田中徳久：『神奈川県植物誌 2018』刊行.....	1015
田中徳久・勝山輝男： 『神奈川県植物誌 2018』で新たに神奈川県の植物相に加えられた植物.....	1016
田中徳久：『神奈川県植物誌 2018』で標本が未確認の植物.....	1021
大西 亘：『神奈川県植物誌 2018』関連展示が開催されています！.....	1022
事務局：2018 年度総会の報告（一部再掲）.....	1024
事務局：会費納入のお願い.....	1025
事務局：『神奈川県植物誌 2018』について.....	1025
田中徳久：高橋秀男氏，ご逝去.....	1026
事務局：次年度の総会について.....	1026
編集後記.....	1026

高橋秀男氏，ご逝去

(田中徳久)

横浜ブロックの高橋秀男氏が1月13日早朝、ご逝去されました。84歳でした。

高橋氏は、近年では、横浜ブロックを主な活動拠点とされていましたが、神奈川県立生命の星・地球博物館の前身である神奈川県立博物館の開館当初より学芸員として勤務され、大場達之氏とともに、神奈川県植物誌調査会による県の植物相調査の基礎を築かれたお一人です（会員の皆様には説明するほどのことではないかもしれませんが）。

県立博物館では、1985年4月1日～1994年3月31日の長きにわたり学芸部長を務められ、その後自然系博物館開設準備室等を経て、生命の星・地球博物館非常勤職員（1995年1月1日～2000年3月31日）をされ、その間、神奈川県植物誌のために収集された標本を始めとした多くの標本の整理を進められ、2000年4月1日に生命の星・地球博物館名誉館員とされました。

また、高橋氏は、1995年より、日本最古の植物愛好団体である横浜植物会（1909年10月創立）の会長に就かれました。毎月開催される例会にほぼ毎回参加され、野外での観察会では熱心に会員の指導に当たられ、12月の室内での講演会では、その年の例会で観察された植物について詳しく解説されるなど、会の発展と後進の指導にご尽力されました。

私自身は、恥ずかしながら県立博物館では高橋氏の後任として採用された上に、横浜植物会の運営委員も拝命していることから、公私にわたり、たいへんお世話になりました。謹んで氏の冥福をお祈りします。

次年度の総会について

(事務局)

2019年4月13日（土）、新装となった「あつぎ郷土博物館」で開催されます。役員会は10:00～、総会は13:30から、その後、講演会の開催を予定しています。万障お繰り合わせの上、ご参集ください。

編集後記

ようやく『神奈川県植物誌 2018』が刊行され、事務局としても、ホッと一段落です。とは言え、早速に正誤の指摘もあり、分布図に使用したデータの各ブロックへの還元など、やるべき仕事は残っています（データベースは総会までには各ブロックへお送りしたいと考えています）。今号は、その一端として『神奈川県植物誌 2018』では示せなかった新産の記録と標本情報が不足している植物についての記事を掲載しました。ご活用ください。

木場英久氏の後を受け、65号より本誌の編集を担って来ましたが、次号より、大西 亘氏に引き継ぐことになりました。新しい担当が、原稿不足で苦勞しないよう、『神植誌 18』後の新知見の原稿（もちろん訂正?!も）など、奮ってお寄せ下さい。（田中徳久）

神奈川県植物誌調査会

〒250-0031 小田原市入生田 499

神奈川県立生命の星・地球博物館内

TEL 0465-21-1515・FAX 0465-23-8846

e-mail kana-syoku@nh.kanagawa-museum.jp

郵便振替 00230-5-10195

加入者名 神奈川県植物誌調査会

年会費 2,000 円